

【1】 財政の動向および前年度収支の状況

1 財政の動向

平成 30 年度の一般会計歳入歳出予算は、当初 29,538,000 千円でありましたが、3月に197,800千円、6月に94,200千円、7月に50,300千円をそれぞれ増額補正しましたので、9月末現在の予算規模は、29,880,300千円となっています。これを前年度の9月末時点の予算現計29,153,000千円と比較しますと、2.5%の増加となっています。

特別会計の歳入歳出予算は、国民健康保険特別会計ほか4会計総額で当初12,031,000千円でありましたが、6月に4,232千円を増額補正しましたので、9月末現在の予算規模は、12,035,232千円となっています。これを前年度の9月末時点の予算規模13,295,316千円と比較しますと、9.5%の減少となっています。

事業会計の収益的支出と資本的支出の合計は、水道事業会計ほか3会計総額で12,429,233千円となっています。これを前年度の9月末時点の収益的支出と資本的支出の合計12,589,579千円と比較しますと、1.3%の減少となっています。

2 平成 29 年度普通会計歳入歳出決算の概況

普通会計とは、地方公共団体間の財政比較等のため地方財政統計上統一的に用いる会計区分であり、一般会計と企業会計・事業会計等を含まない特別会計を合算した会計区分です。

平成 29 年度普通会計決算額は、歳入が 29,498,194 千円（前年度 30,445,454 千円）、歳出が 28,322,474 千円（前年度 29,548,484 千円）、前年度と比較すると、歳入は 947,260 千円（3.1%）、歳出は 1,226,010 千円（4.1%）の減少となりました。

歳入歳出差引額（形式収支）は、1,175,720 千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、914,461 千円の黒字となりました。

歳入においては、自主財源のうち基幹的な財源である市税は、個人市民税が 0.8%、法人市民税が 6.4%増加しました。固定資産税は、土地で 2.0%減少しましたが、家屋で 1.0%、償却資産で 1.9%増加しました。市税全体では 0.6%の増となりました。財産収入は 52.7%減少し、寄付金はふるさと納税制度「びわ湖高島えんむすび」により 13.5%増加しましたが、繰越金で 34.4%減少し、自主財源全体では 0.8%の減となりました。

依存財源では、地方消費税交付金が 3.2%、株式等譲渡所得割交付金が 151.4%それぞれ増加しましたが、国庫支出金が 6.5%、地方交付税が合併

算定替えによる段階的縮減等で 7.7%それぞれ減少し、依存財源全体では 4.1%の減となりました。

歳出においては、目的別歳出決算で、総務費が庁舎増築事業など普通建設事業費が増加したものの財政調整基金等積立金の減により 15.8%の減、衛生費で環境センター施設補修事業の減などにより 16.2%の減、農林水産業費では農業集落排水施設および林業集落排水施設の公共下水道への統合に伴い農業費、林業費の下水道事業負担金を下水道費から支出とすることにより 25.1%の減となったほか、増加分としては土木費で橋梁長寿命化計画に基づく点検調査および耐震改修工事のほか、農業集落排水施設および林業集落排水施設の公共下水道統合に伴う下水道負担金の増などにより 26.8%の増、災害復旧費では平成 29 年度の台風 5 号および台風 21 号災害復旧事業により 258.5%の増となりました。

次に、性質別歳出決算においては、義務的経費で地域活性化基金造成事業による起債償還終了に伴い公債費が 11.6%の減となりました。一般行政経費の補助費の増については、下水道事業の企業会計への移行に伴い、下水道特別会計および農林業集落排水特別会計を廃止したことから、下水道事業会計への一般会計繰出金を負担金支出することにより増額となったものであり、これに伴い繰出金は減となりました。

3 平成 29 年度収支の状況

実質収支	914,461 千円	(前年度	799,867 千円)
単年度収支	114,594 千円	(前年度	△449,857 千円)
実質単年度収支	△194,772 千円	(前年度	500,019 千円)

(1) 実質収支

平成 29 年度における歳入歳出差引額（形式収支）は、1,175,720 千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、914,461 千円の黒字となりました。

(実質収支 914,461 千円＝歳入 29,498,194 千円－歳出 28,322,474 千円－翌年度繰越財源 261,259 千円)

(2) 単年度収支

当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた単年度収支は、114,594 千円の黒字となりました。

(単年度収支 114,594 千円＝平成 29 年度実質収支 914,461 千円－平成 28 年度実質収支 799,867 千円)

(3) 実質単年度収支

単年度収支に財政調整基金への積立額および地方債の繰上償還金を加え、財政調整基金の取崩額を差し引いた実質単年度収支は、△194,772千円の赤字となりました。

(実質単年度収支△194,772千円＝単年度収支 114,594千円＋財政調整基金積立金 7,090千円＋繰上償還金 10,917千円－財政調整基金取崩額 327,373千円)